

建設通信新聞

ICT利活用や災害・防災テーマ

日本建設機械施工協会(JCMA、辻靖三会長)は、東京都港区の機械振興会館で「建設施工と建設機械シンポジウム」を2日間にわたって開いた。写真。ICT(情報通信技術)の利活用や災害、防災、復旧・復興などをテーマに講演や報告、ポスターセッションなどを展開した。初日のメインイベントとして、西川和廣橋梁調査会専務理事が「道路橋の維持管理―長寿命化の推進でわかってきたこと―」と題して講演を行った。

2日目には、「これからの情報化施工―社会インフラマネジメントの始まり―」と題するパネルディスカッションも開かれた。コーディネーターは、立命館大教授で国土交通省

JCMAがシンポ



野雅行コマツ開発本部業務部長、古屋弘大林組技術本部技術研究所生産技術研究部主席技師が登壇した。この中では、土木分野での情報化施工がなかなか進まない背景を題材に、「儲かる仕組み」を構築することについて討議した。参加者からは「元下構造によって、下請けが投資したメリットを生かせない」などの実例が挙げられ、建山教授は「情報化施工を導入して評価し、利益を生み出すという流れをつくるのが大切だ。20年後には情報化施工は一般的なものになっていると思うが、今は具体的に何が必要なのかを着実に議論し、実践することが必要だ」と締めくくった。

最後に論文とポスターの優秀賞を表彰した。

優秀論文と優秀ポスターは次のとおり。

〈優秀論文賞〉

▽「新幹線直上に高架橋架設を行う機械装置の開発(東北縦貫線工事の実績)」

▽「鹿島建設」緊急小型車両の通行を想定した新しい緊急橋の実験的研究」

▽「広島大学大学院」分級と改良を用いたゴミ混じり津波堆積土砂の再資源化に関する試験施工」

▽「東亜建設工業」

〈論文賞〉

▽「造粒技術による災害廃棄物の復興資源化」

▽「清水建設」アスファルトプラントにおける固形燃料燃焼システム」

▽「日工」

〈優秀ポスター賞〉

▽「WCS工法加水制御を用いた自走式土質改良機による砂防ソイルセメント材の製造技術工法」

▽「玉石重機」建設現場における機械施工の効率化の提案―低コストで現場の施工技術を革新する機械マシンガイダンス」

▽「カナモト」道路、法面、河川敷の竹藪、雑草や雑木の粉碎及び回収装置」

▽「西尾レントオール」

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ③建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |